

広島県障害者社会参加推進センター会報

発行・編集 広島県障害者社会参加推進センター
〒732-0816 広島市南区比治山本町12-2
広島県身体障害者団体連合会事務局
〔TEL(082)254-2505・FAX(082)254-0202〕

2022年第8回スペシャルオリンピックス 日本夏季ナショナルゲーム・広島の開催

(SON広島・大会実公委員会)

スペシャルオリンピックスは、オリンピックと同様に4年毎に夏季・冬季の世界大会を開催しています。広島県で開催される「2022年第8回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・広島」は、2023年にドイツで開催される世界大会への日本選手団選考を兼ねて開催します。

- 開催日程：2022年11月4日（金）～6日（日）
- 開催地：広島県内各所（広島市、呉市、三原市、北広島町）
- 予定参加者：47都道府県の地区組織
アスリート / 約900名
役員・コーチ / 約600名
大会役員・審判 / 約350名
ボランティア / 延べ約4,000名
観客 / 延べ約10,000名

○スペシャルオリンピックスとは

スペシャルオリンピックス日本（SON）は、知的障害のある人たちにスポーツトレーニングと、その成果の発表である競技会を、年間を通じて提供し、社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。スペシャルオリンピックス日本は、スペシャルオリンピックス国際本部より国内本部組織として認証を受け、日本国内での活動を推進しています。

○スペシャルオリンピックスの特徴

ディビジョニング：スペシャルオリンピックスの競技会・大会では、可能な限り同程度の競技能力のアスリート同士で競技できるように、性別、年齢、競技能力などによってグループ分け（ディビジョニング）を行います。このグループ分けによって、能力を十分に発揮できるものと考えています。

全員表彰：スペシャルオリンピックスの競技会・大会に参加した全てのアスリート（失格等を除く）が表彰台に上がり、全てのアスリートにメダルやり

ボンがかけられます。順位だけでなく、競技場に立ち最後まで競技をやり終えたことに対して、一人一人に変わらぬ栄誉が贈られます。

○スペシャルオリンピックス日本ナショナルゲームについて

地域での日常のスポーツトレーニングの成果を発表する場として、4年に1度、夏季・冬季のナショナルゲーム（全国大会）を開催しています。

☆大会ロゴ・スローガン記者発表

2021年4月20日、おりづるタワー12階において、有森裕子大会会長（SON理事長）市原則之副会長（SON評議員）はオンライン出席、湯崎広島県知事をはじめ競技開催地区4市町長、山根広島県障害者スポーツ協会会長、森崎浩司サンフレッチェ広島アンバサダーが出席して行われました。



☆大会1年前イベントの開催

2021年11月20日に広島平和公園原爆ドーム前と宮島棧橋前広場において、広島東洋カープ前監督で大会サポーターの緒方孝市さんら県内ゆかりのあるスポーツ選手と、大会出場を目指すアスリートやその家族約300人が参加して大会PRイベントが開催されました。



私たちはこの大会をSON広島に関わる全ての方々のお力添えのもと、全国のアスリート、ファミリー、ボランティアの皆様的心に残る素晴らしい大会にしたいと思えます。また、何よりもこの大会をスペシャルオリンピックスの活動広く広島の県民、市民、地元企業の皆様に知っていただき、支援の輪を広げる契機としたいと思っています。皆様のご理解と、一層のご支援、ご協力を心からお願いいたします。

また、2022年1月から大会運営や選手団サポートをしていただくボランティアを地域、企業・団体、学校などを通じて広く募集することとしております。スペシャルオリンピックスの活動や大会に興味・関心のある方の応募をお待ちしています。

2022年第8回スペシャルオリンピックス日本
夏季ナショナルゲーム・広島大会実行委員会
〒730-0051 広島市中区大手町一丁目5-3
広島県民センター 6階 ひろしまNPOセンター内
Tel : 082-248-2546 Fax : 082-248-2547
E-mail : song2022@son.or.jp

《施設紹介》

広島県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センター



広島県立障害者リハビリテーションセンターは、東広島市西条町田口に位置し、「医療センター」「医療型障害児入所施設若草園」「医療型障害児入所施設若草療育園」「障害者支援施設あけぼの」「身体障害者福祉センター(A型)スポーツ交流センター・おりづる」の施設で構成され、相談から診断・治療・訓練・評価・スポーツ・文化活動に至る幅広い分野における一貫した支援機能を有する総合施設です。また、現在、「医療型障害児入所施設わかば療育園」のリハビリ

テーションセンターへの新築移転工事が進んでおり、今後は「若草療育園」と「若草園」の改修・増築工事が行われます。

スポーツ交流センター・おりづるは、障害のある人もない人も、ともに生活し活動できる社会を目指して、社会参加推進事業やリハビリテーションを行っています。障害のある人の生きがい作りを支援するため、社会参加並びに相談に至るまでの総合福祉サービスを提供するとともに、すべての県民が気軽に交流できる場として事業展開をしています。

1 主要事業の実施

(1) スポーツ教室

障害のある人のスポーツを「楽しむりハビリテーション」として、活動への動機づけや技術の向上や知識の習得を目指します。

(2) 文化教室

余暇活動の充実や人と人とのふれあいを通じて社会参加を図ります。

(3) スポーツ大会

毎年開催される全国障害者スポーツ大会の広島県代表選手選考を兼ねた大会や、障害のある人が交流・親睦を深める場として大会を開催しています。

(4) イベント活動

障害のある人とない人の交流を図り、相互の理解を深めることを目的として開催しています。

2 相談事業、情報提供

日常生活、社会生活、福祉等の相談に応じ、必要な助言・指導を行っています。また、障害者支援事業所を訪問して個別指導を行う「障害者健康増進事業（おりづる巡回相談）」を行っています。

3 ボランティア・障害者スポーツ指導員の養成

ボランティアの人材育成を目的に「おりづるサポーター養成講習会」、県内の障害者スポーツの普及を目的に「障害者地域スポーツボランティア講習会」、障害者スポーツ指導者の育成を図る「初級障害者スポーツ指導員養成講習会」を開催しています。

4 障害者スポーツの支援

(1) 地域派遣事業

県内各地の社会福祉施設や学校等に職員を派遣し、障害者スポーツの教室・レクリエーションスポーツの紹介や体験を行っています。

(2) 県内7拠点地域派遣事業（庄原市・府中市・廿日市市・尾道市・呉市・三次市・北広島町）
障害者スポーツ活動に、その地域にお住いの障害者に参加していただき、各活動が地域に根差せるようにサポートしています。

(3) 障害児放課後活動支援活動（おりづるジュニアクラブ）

中学校の特別支援学級に在籍する生徒が、放課後の時間を利用してスポーツや文化活動を楽しむことを目的として実施しています。

(4) 東広島市障害児余暇活動支援事業

東広島市から委託を受け、広島大学の学生とタイアップしてスポーツ活動と工作を通じ、今後の余暇活動をより充実したものにすることを目的として実施しています。

(5) 全国障害者スポーツ大会広島県選手団派遣事業

スポーツ交流センターに事務局を置く「広島県障害者スポーツ協会」の主催で、当施設と連携して事業を行っています。

スポーツ交流センター・おりづるの施設及び事業に興味・関心のある方は、お気軽にお問合せください。



スポーツ交流センター「アリーナ」



スポーツ交流センター「プール」

広島県立障害者リハビリテーションセンター
スポーツ交流センター・おりづる

〒739-0036 東広島市西条町田口295-3

Tel : 082-425-6800 Fax : 082-425-6789

E-mail : oridsuru@hiroshima-wsc.jp

コロナ禍における 手話通訳者養成事業・手話通訳者派遣事業

（一般社団法人広島県ろうあ連盟）

広島県ろうあ連盟の会員のほとんどは1級・2級の重度の聴覚障害で、コミュニケーション手段が主に手話である聴覚障害者です。

「いつでも、どこでも手話で会話を」「いつでもどこでも手話通訳を」と手話を広める運動を進めています。

国が「手話を広めるため」に1971年から始めた手話奉仕員養成事業も、現在、県内各市町で実施されています。手話入門講座は18講座、基礎講座は22講座の計40講座の実技と、6講座の講義です。その次に手話通訳者を育てるために手話通訳者養成事業が県事業として実施されています。手話通訳者養成Ⅰでは20講座、手話通訳者養成Ⅱでは20講座の実技と、9講座の講義の内容となっており、手話通訳者を育てるには長い時間がかかります。短くて3～4年、長くて10年。

昨年からのコロナ感染拡大により、緊急事態宣言が3回発令され、会場となる施設が閉鎖され、講座が開催できない状況になりました。しかし、手話を広め手話通訳者を養成することは「不要不急」ではなく「必要至急」要件です。今では、多くの会場で再開できるようになり、日程を工夫し、講師・受講生とも熱心に学習していただいています。若い受講生が少ないのは継続的な課題です。

手話通訳者の派遣事業は、ろう者個人が利用する公的な派遣（県ネットワーク・市町派遣事業）以外に、行政や団体の行事への手話通訳派遣事業を県ろうあ連盟で実施しています。これもコロナ禍の影響が大きいです。行事の多くが中止になり、オンラインでの配信やウェブ研修など新しい手話通訳派遣が増えました。手話通訳というのは、対面での通訳が基本です。しかし、緊急時や感染症対応などとして、オンラインでの遠隔手話通訳という事業を厚生労働省が始めました。

最近では、首相記者会見や行政長官の記者会見も全国的に手話通訳が付けられて実施されています。広島県でも、県、広島市、呉市、東広島市のHPで手話通訳付きの記者会見が動画配信されています。

今年開催されたパラリンピックの放送では、NHKが新たな方法で手話放送を行い、ろう者

にとっても好評でした。新聞のテレビ番組欄を見てもわかるように、多くの番組で字幕が付くようになりましたが、手話が付く放送は全体の2%程度にとどまっています。ろう者にとって手話は言語であり、手話放送が進展することを切に願っています。

県ろうあ連盟では、誰もが取り残されないために、今後とも制度の充実・環境の整備や人材育成に取り組んでいきます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



コロナ禍前(2019年11月)での手話通訳者養成事業の「講義」の様子

一般社団法人広島県ろうあ連盟
〒734-0007 広島市南区皆実町一丁目6-29
広島県健康福祉センター 2階
Tel : 082-252-0303 Fax : 082-252-0309

コロナ禍での活動の工夫

広島県手をつなぐ育成会会長 金子麻由美

新型コロナウイルス感染症の拡大で自粛を余儀なくされ、活動も思うように進まない1年半でした。そんな中で、インターネット環境とパソコンやスマホやタブレットなどの端末が必要ですが、「リモート」によるコミュニケーションが広がったことは、コロナ禍での収穫の一つだったように思います。

まずは役員会、研修会でオンラインを活用し自宅からでも参加できるようにしました。私も自宅から大阪市や仙台市で行われた研修会に参加して、全国の皆さんと話すことができました。移動のコストがかからない「リモート」はとても便利です。

とはいえ、まだインターネットに馴染まない方も多いため、今年度の広島県知的障害者福祉大会は、DVDを作成して配付することにしました。今後は「対面」「オンライン」や「DVD」「YouTube」等、いろいろな参加の方法を選べるよう考えたいと思っています。

知的・発達障害のある人にとって、新しい生

活様式に慣れるということは大きなハードルでした。マスクの着用の苦手な方が多くおられました。時間をかけて少しずつ慣れてきています。ただ、感覚過敏や息苦しさ等で着用が困難な方もいるのでご理解いただく啓発活動も行っています。また、ソーシャルディスタンスについては、スーパーやコンビニや駅等、どこでも足跡のマークや進む矢印があり、こうした視覚支援はとても分かりやすくありがたいことです。

活動についても縮小を余儀なくされ、今までのように集まっておしゃべりする機会が少なくなりました。コロナ禍の中でも「みんなと繋がりたい」という本人の皆さんの希望から、育成会事務局から県内の本人活動をしているグループに声を掛け、それぞれの活動の様子やメッセージを集めて冊子を作りました。仲間を心配する声や本人の皆さんの写真も添えてあり、とてもほっこり温かい冊子となり好評でした。また、支援者とグループや個人で参加して、中国・四国ブロックでのオンライン交流会も体験しました。直接会って話したい気持ちも聞かれましたが、遠くの人も繋がる驚きや喜びもあり、今後もインターネット環境や支援者の確保が広がることを期待しています。

その他に、当会では「新型コロナのワクチン接種（注射）について、知っておいて欲しいこと（説明書）」を作成しました。ワクチン接種するかどうかは最終的に家族や施設長等と相談するにしても、障害のある人も、ワクチンとは何か、どんなメリットやデメリットがあるのか？自分は接種できるのかどうか？等、できるだけ知って選択することは大切だと思います。イラスト入りで分かりやすいので、子どもや高齢者や外国の方等、幅広くご活用いただけたと思います。当会のホームページに掲載していますので、多くの方にご利用いただけたら幸いです。



広島県手をつなぐ育成会HP・QRコード

一般社団法人広島県手をつなぐ育成会
〒733-0004 広島市西区打越町17-27
Tel : 082-537-1773 Fax : 082-537-1778
E-mail : kenhonbu@magic.odn.ne.jp
<http://www2.odn.ne.jp/hiro-ikuseikai/>